

9番（山口良広君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より登壇の許可を得ました山口良広です。

まずは、去る11月8日市内の病院にて、入院中の山内町の宮元さんがけん銃で撃たれ死亡されるという痛ましい事件が発生しました。死亡された宮元さんの御冥福を心からお祈りいたします。私たち武雄市議会議員一同は、一日も早い射殺事件の真相究明とけん銃犯罪の根絶を求め、安全・安心な武雄の建設に努力したいものです。

さて、私は今回の一般質問では、どうしたら市民生活はよくなるのか、とりわけ農家生活は、農村はどうなるのか、どうしたらいいのかを市執行部に投げかけたいと思うのです。本来なら、収穫の秋を迎えた米代金や大豆の代金が、ミカンや施設園芸のキュウリ、イチゴ、チンゲンサイ、花と収穫が始まり胸がわくわくするところです。でも、ことしは違います。販売代金は安いし、それもいつ入るかわからない。施設園芸品は単価はいいが、暖房用のA重油は1リットル当たり80円と10年前の2倍近くなっております。また、牛や豚の畜産物は、世界的な干ばつなど異常気象と主原料のバイオ燃料との分捕り合戦で品薄となり、えさ高となっております。このように、お先真っ暗なのが農業情勢です。

それでは、世界の食料事情を言うと、中国、インドなどの旧発展国の食料消費の上質化、世界的な異常気象による収穫減、バイオ燃料との分捕り合戦など、世界的にはどこかの地域で貧富の格差により大量に餓死者が出てもおかしくないのが世界の食糧事情なのです。それではと日本の食料自給率を見ますと、辛うじて40%を維持し、食料品の大半を輸入に頼っているのが日本なのです。それでも日本の国では、主食の米は生産調整をやっているのが現実です。このような世界の、日本の食料情勢なのです。

でも、日本の農業政策は、WTO基準に向けての米、麦、大豆と何でもかんでも国際競争力のある農産物をつくれの大合唱です。確かに長期的に見れば、高齢化が一段と進む農村、国際化の中で日本の農業を守り、担い手農家を育てるには今の政策は必要かもわかりません。でも、生産調整を農業団体にだけ押しつけて、結果、作況指数は99と全国的には不作のこの年、本来ならば850万トンの収量目標が26万トンも多いという結果は、全国で3%以上の農家が生産調整に協力しなかったということです。それで、来年はさらに39万トン、昨年のやみ収量の26万トンを加えると65万トンの昨年の収量からすれば、実に7.5%の生産調整をやらないと需要と供給のバランスはとれないということです。それをまた農業団体にだけ押しつけられようとしているのです。それが現在の農業政策です。結果はまた見えているようなことです。

このように、今非常に難しいのが日本の農業政策であり、食料政策です。この辺の問題は農協の理事もしておられる小池議員に頼むとして、私は市民の皆さんに農村を見てもらい、田舎、日本のおいしい農産物を腹いっぱい食べて、毎日「おかわり」の言葉が出るような声が聞こえて、米の消費減少に歯どめがきけば農政問題は大分解決すると思うのです。おばあ

ちゃん、おじいちゃんと生活するような元気な武雄になり、ならなくてはならないのです。そうしないと、今のままのお年寄りだけのまじめな農業者は惨め過ぎます。それをどうかしたい、そのためにはまず武雄が元気になってもらい、若者が武雄でぜひおじいちゃん、おばあちゃんたちと一緒に生活するような環境整備、それを私は今回の質問で訴えたいと思います。

まず、「TAIZO+TAKEO展」があったわけですけど、この評価を市長はどのようにとらえておられるかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、数字の面で申し上げますと、「TAIZO+TAKEO展」で2万人を超す来場者、そして関連イベントまで、これは数え方にもちょっとよりますけれども、6万人を超す来訪者等々を考えると、数的にはこれは、私は当初全体で3万人という目標を掲げておりましたので、それは倍以上ということで一定の効果はあったのではないかというふうに思っております。基本的には70点だというふうに思っております。それじゃ、30点はどういうことかという、これは第1回でありますので、基本的にこれが経済行為に結びついているかどうか、要は来訪者が武雄に来てきちんとお金を落とさせていただいたかどうか、これはまず実行委員会等で私もきちんと聞かなければいけないと思っておりますけれども、さほどその実感がやっぱり1回目ということ、そして知られていないということもあって、その結びつきがやや弱かったのかなということは思っておりますので、これは先ほどの答弁でもお答えしたとおり、まず実行委員会できちんと総括をしようということ、それとそれに基づいて、私は次回も開催を個人的にはしたいと思っておりますけれども、そのときにどういうふうに結びつけていくかと、これについては冷静に議論に加わりたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

2万人以上の参加者もあったということで、参加的には大成功だったと思います。私はこの写真を一つ一つ見て回るうちに、いろんな生活の場、武雄の思い、いろんなものが写っていると思います。すばらしいものがあったと思います。これを今後どのように継続されていられるのかをお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先ほどお答えしたとおり、終わってまだ1日もたっておりませんので、まず実行委員会で

今回の総括をしていただくというふうに考えております。その上で、私としては日本に、これは議会でも再三申し上げたことでもありますけれども、日本に写真のまちというのはないわけですね。イベントで、例えば北海道の東川町なんかはその写真の町というふうに標榜されておりますけれども、その期間だけであると。だから、もし可能であれば、武雄に来たときに一ノ瀬泰造さんを含めて非常に質の高い、そして親しみやすい写真がいつでも見られる、そして絵はがき等で、これはお土産として買っていける、そういうふうに写真のまちななればいいなというふうに思っておりますけれども、これはまだ時間がかかることですので、次のイベントをもし実行委員会としてやるということになったときには、そういうことしの総括を踏まえて、何を目指すかといったことをもう一度改めて考え直してみた上で次につなげていきたいというふうに考えております。

ただ、ちょっと先ほど答弁すればよかったんですけども、「世界のばあちゃん写真展」ということで銘打って、これについては撮った方も来訪者も非常に好評であったということは聞いております。何でじいちゃんがないんだというお声もありましたけれども、基本的にはこの「がばいばあちゃん写真展」といったことについては、少なくとも私の耳にはこれはよかったというふうに聞いておりますので、そのばあちゃん、高齢者ですよの元気なお姿をさらにその写真で提示をしていくと。これは、いろんな意味、特に福祉行政を考える意味でも非常に大きな効果があったのではないかなというふうに理解しております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私は今後、ホテルや飲食店、空き店舗などのスペースに常設の展示場を、民間の施設の協力を得て行うとともに、常設展示場には武雄市のいろんな観光地のその時々風景や人々の営みを写真展として見せることにより、滞在し行ってみたくなるような町になってもらえればなあと思っております。ぜひ今後も秋の武雄のイベントとして継続してもらい、私は写真と今にぎわっております日曜朝市がセットとなって、町なかを歩く人がたくさんできればいいなと考えております。

次に、周辺部のさるくについてお尋ねし、提案したいと思っております。長崎街道と九州自然遊歩道はどう保存され、生かしていかれるかについて聞きたいと思っております。

まず、長崎街道の案内板として北方支所の前にすてきな看板がありますが、今後も街道沿いには同じようなすてきな案内板が立てられていくのかお尋ねしたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

長崎街道関係の看板でございますが、先ほどありましたように、旧武雄町内に25カ所、それから北方町内に10カ所設置をされています。これについては自然石を利用した案内板でございます。今後については、市全体のサイン計画等を検討する中で考えていきたいというふうに考えています。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

旧市内には25カ所、また北方に10カ所あるということです。私はこの長崎街道は歩いてさるくにはとてもいいような街道だと思っております。

そこで、教育長にお尋ねしますが、教育長は長崎街道を歴史的にどう評価されているのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

長崎街道は、江戸時代に整備された九州地方第1の幹線道路でありまして、小倉から長崎まで57里、228キロメートル、25宿が置かれていたと。この街道を通ったのは、長崎奉行や江戸参府した公人、また、軍人や商人、幕末にあつては洋学を志す多くの人々が来られたようです。長崎という世界の文化の窓口に通じる重要な道として認識しておりまして、武雄には3つの宿場があり、現在の武雄温泉のところに本陣、東洋館のところにわき本陣が置かれていたと。街道の名残をとどめておりますのは、北方の本陣跡が新町通り、鳴瀬通り、高橋の町並みなどございます。時代の趨勢によりまして道幅が広くなったり、厳密な意味合いからすると、その景観が変わってきている部分もあるかというふうに理解をしているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、教育長のすばらしい答弁にもありましたような形で街道があるわけです。これをいろんな形でもっと充実してもらって、歩くような町並みにしてもらいたいということです。

その中で、私は今いろんな看板があるわけですが、それにあわせて今後、ここだけじゃなくいろんなところに手づくり看板というものをつくって、案内というものができないかなということを考えているわけです。本議会では、今回、武雄市景観条例案が提案されています。その中で、第3条、市は次に掲げる基本理念に基づき良好な景観形成を推進する。1つ、美しい自然を未来に残すこと、2つ、歴史と伝統文化を継承し、守り育てることとうたっています。これを踏まえて、私はこの長崎街道など至るところに手づくりの看板でおもてなし、

案内はできないかと考えているわけです。そのようなものはできるかどうか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

看板が多過ぎると看板通りになってしまうわけですね。ということで、基本的には先ほど営業部長から答弁があったように全体のサインの計画があって、そこに例えばこういう色がいいとか、こういう形がいいとか、あるいは木材というこういう材質がいいとか、そういうガイドラインがあって、その中で例えば景観重点地区であれば、まあこれぐらいまではいいよねと。全然規制されていないようなところについては、もっともっとというふうにですね、そういう仕切分け、色分けをした上で進めるべきであって、あと、その手づくり看板という、ありますけれども、それはぜひ山口良広議員でその手づくり看板を、温かみのあるようなのをつくっていただいて、これでどうだろうかといったことを我々に実際投げかけていただければ、これこそ本当の市民協働だというふうに考えております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ちょっと私も思ったわけです。景観条例や道路交通法などいろんな形での規制というものをクリアした形で 朝日町内にあります巨木のイチョウやケヤキ、そんな看板等がちょっと、もう1つ工夫すればもっと住民とかいろんな人に紹介することができるんじゃないかなということを感じるわけです。その点を今の場合、長崎街道と限定したわけですけど、いろんなところに、武雄市内のたくさんの地域にマッチしたような形で設置されればおもしろい観光案内、道案内ができるんじゃないかと思っているわけです。おまえがつくれということですので、おいも一丁頑張ってやってみますけど、1人の力は限度がありますので、たくさんの方のアイデアとか形でできればいいなと思っています。

次に、この街道にあります旧田代酒造跡地のことです。

旧田代酒造跡地は、武雄市の市有財産として購入されて今あるわけです。さきの「がばいばあちゃん」での口ケ地の一部としても利用されました。しかし、内部を見ると何か手を施せばいい観光資源になるんじゃないかなと思うわけです。ぜひ市長の柔軟なアイデアで何かできないかなということを考えるわけですけど、いかがなものでしょうか。それで今どれぐらいこの施設に対して保存経費がかかっているのかも兼ねてお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、金額の点から申し上げたいと思います。旧田代酒造跡地の維持管理費として、機械、警備委託料等に438千円お支払いをしております。ほかに清掃作業を職員で行っている状況にあります。私が見込み違いだったのは、まさかあの淀姫神社にですね、週末に、きのう、おととだけでバスが50台以上来ているという状況。私は逆に田代酒造に行くと思うとったわけですね。この読みが完全に外れました。なぜならば、「佐賀のがばいばあちゃん」である田代酒造は、スパイクを売る本当に感動的なシーンに使われたということで、そちらのほうに行って、そこで「がばいばあちゃん」のロケ地の主要な一つとして活用がなされるのではないかと期待をしておりましたけれども、これは完全に私の見込み違いでありますので、ちょっともう一回冷静に振り出しに戻って、どういうふうに活用があるかということをもう一回市民団体とよく話し合いをして、使われなければ使わないほどコストになりますので、それはどういうふうにするかということはまだもう少し早く検討をしたいと、このように考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

以前この議会では、武雄町の公民館に利用とかなんとかいろんな形での提案もなされてきたわけです。それらを含めて、せっかくのいいところにある土地であり、保存するような施設だと思いますので、ぜひ検討されて、いい形で保存ができていくことを期待しております。

次に、九州自然遊歩道についてお尋ねします。

この歩道は九州内を1周回るということで、壮大なロマンのもとで建設されて、私も場所場所によっては歩いたりしているわけですけど、地域住民の力で保存がなされているわけですけど、これも今の健康志向の中では大事にすればいいんじゃないかなということを感じるわけですけど。この九州自然遊歩道は、武雄市内ではどのコースを通過しているのか、また、どう維持管理されているのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

お尋ねの九州自然歩道でございますが、武雄市内で言いますと、山内町の黒髪山から武内町の多々良を通りまして、伊万里の桃川を若干通って、眉山のキャンプ場を通過して山頂の八幡岳に続いております。また、そこから若木町の女山のほうに通ずる道路が遊歩道でございます。そういうことで県のデータによりますと、総延長が市内で約42キロメートルございま

す。

それからもう1点の維持管理でございますけれども、これについては県のほうから武雄市のほうに管理委託をされておりまして、年間の委託金額が約760千円ということで、中身については地元のほうに歩道の管理とか、あるいは歩道の巡視、清掃、それから草刈り、そういうのは地元のほうに委託をしております。委託の区としては若木町の川内、菅牟田、下村、黒岩と、それから武内町の柚ノ木原区、それから山内町の今山、宮野区に管理をお願いしているところでございます。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今どれぐらいの人がこの遊歩道を利用されているというデータはありますか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

うちのほうで利用者の数については把握しておりませんが、これは県のほうで集計をされておりまして、18年度は今集計中ですが、平成17年度実績を申し上げますと、黒髪山周辺が約13万人、それから八幡岳周辺が1万4,000人ということになっております。ただ、中身については公園のほうに行くお客さんがかなり多いということで、実際歩道を歩いている方がどれくらいいるのかについては余りないんじゃないかなという感じをしております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、現実的に黒髪山のほうには13万人とか、八幡岳のほうに幾らというふうな形で登られて一部を通られたというようなことがあるわけです。私も眉山に以前子供たちを連れてキャンプ等に行くときには、その周辺部から八幡岳あたりを回ったこともあるわけですが、もう地元の人からすれば、本当に縁の下の力持ちというような形の中で、少ない予算の中で管理されているわけです。ぜひ今自然というものは大事にしなくてはなりません。環境、それらを考えるときにぜひ今いろんな形で観光マップがつくられております。話はこう大げさになりますけど、私の近くにあります朝日の紅葉ということで、神社のイチョウやケヤキのことが取りざたされたわけです。そしたら、それが原因かどうかわかりませんが、たくさんの人にことし紅葉というのを見てもらいまして、名前は忘れましたが、ホームページの中でもその場を表現されておられました。

このようにちょっとアピールをすればいろんな人が歩いたり、出かけたりするようなとこ

るになると思いますので、ぜひそういうことにチャレンジしてもらいたいと思います。そうすることにより、私はその周辺部にある農村というものをぜひ見てもらいたい。そして、ああやっぱりこんな農村を、山間地の農業をどうしたら もう守らんばいかなという雰囲気というものをぜひ感じ取ってもらいたいわけです。ただ、こういうんな文章で書くことも大事でしょうけど、そこに行ってもらって自然を守っている人は山里の農民なんだ、山の人なんだ、しかしこの人たちはどがんして生活しよんさろうかになて、どがんないとんこの食う道というものば考えてくれんないば、農村、山村はつぶれるんじゃないかなということ痛切に感じますので、なしがんことば言わしたかになて思わるっかわかりませんが、最後はそこまで持っていきたいわけです。

次に、その観光ということで市民農園についてお尋ねします。

今、武雄市には市民農園があるわけですけど、市からの持ち出し経費と利用者の経費などを含めて、その市民農園としての利用状況はどうなっているかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

市民農園でございますが、今現在1カ所ございまして、場所は小楠の家畜保健所の南のほうになります。そういうことで、面積が約29アールで1区画が15平米でございます。全体で90区画ありまして、今現在63区画が利用になっているということで、利用者については32名でございます。1人の方が2とかそういう区画がある関係で32名になっております。全体的には70%の利用率になっているところでございます。

それから運営の方法でございますが、利用料が1区画で年間4,200円になっておりまして、支出については土地の借り上げ料等が441千円、これは管理委託料、それから土地の借り上げ料、それから消耗品等になっております。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

では、このような農園は、どんな法律や条例にのっとって運営されているのでしょうか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

市民農園の開設の方法でございますが、うちのほうで把握している中では2通りございま

して、まず特定農地貸付法に基づく開設、これについては地元の農業委員会の承認が必要でございます。それからもう1点が、これは県のほうの知事の認可が必要でございますが、市民農園整備促進法に基づく開設の方法がございます。現在、市のほうでやっている農園につきましては、最初申し上げました特定農地貸付法に基づく開設の方法ということで、これについては開設場所の利用が見込める、それから周辺の農地に支障がないと、そういう条件がありまして、武雄市の農業委員会の承認を得て開設をしているという状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

そしたらですよ、このような市民農園というものは市外の人でも利用されるわけですかね。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

現在、市のほうが設置している農園につきましては実施要綱をつくっておりまして、利用につきましては、使用者については市内に住所がある方、それから市内の事業所に勤務をしている方ということになっておりますので、現在は市外者は利用できないということでございます。ただ、これについては法的にその市外者はだめというふうなものでございませんで、先ほど言いましたように利用者が今7割ということでございますので、あと残りについては議員おっしゃるように市外の方が利用できるような、そういう面については前向きに検討をしていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私はこの市民農園というものを、今市内のあそこの広い田んぼの真ん中に1カ所あるわけです。周りからぼーん見えるような中で、真夏には暑い中で、木陰もないようなところで朝早くからいろんな形で管理がなされているわけですけど、これをいろんなところに、これこそ民営化して集落営農や個人に運営を任せたらおもしろい、ユニークな貸し農園ができるんじゃないかと思うわけです。例えば、山間部あたりで木陰のあるような、今のところ水田を利用しているわけですけど、畑あたりを利用したら、果樹あたりとのセットになったら、おもしろいものができるんじゃないかなと思っているわけです。そしたらもっと農業にも理解する方がふえるし、そういうことをしてもらいたいなということを考えるわけですけど。その点、こういうふうに、民営化で個人が貸し農園というものを開設してもらおうことが武雄では考えられるかどうかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

市内での水田等を利用した貸し農園の話でございますが、観光農園としては今現在、東川登のほうにブドウ園が1カ所ございます。それで、水田等を利用してのそういう方法ですが、問題は、結局収益があるかないかにかかってくると思いますので、現在、転作関係でやっとなる場合については、結局収益性がないということで、なかなかそういう方向に行っていないというのが現状でございますので、そこら辺の問題がクリアできれば可能であるというふうに考えます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

特に、果樹の観光農園はぜひふやしてほしいと思うわけですね。これは別に市営の今の農地を民営化するのではなくて、個々の農業経営者の皆さんたちがその全体の農業のうちの、例えば2割でも3割でもそれに充ててほしいというふうにするわけですね。

と申しますのも、例えば伊万里市です。伊万里市はナシ園であったりとか、イチゴ園であったりとか、旅行雑誌は3月とか、4月に見つきですね、そいばっかい載っただけですね。武雄はいつも端っこです。それはなぜかという点、その果樹がとれるときにそういうふうにする観光農園ばセットにして今伊万里市、あるいは佐賀市が売り込みよんさっわけですね。私はこれは深く見習うべきだというふうに思っておりまして、例えばイチゴであったりスイートピーであったりというところであると、例えば体験で切ってみるとか、切り過ぎぎんたなくなってしまうけんですね、その辺のバランスは必要ですけども、それに加えてぜひ付加価値のある農産品ばそこでまた売ってほしいかと思うわけですね。私は、スイートピーでジャムもつくれると思います。だから、そういうふうにする付加価値の高いものを見に来てもらって、例えば少し買ってもらって、お土産も含めてそこでお金を落としてもらおうというふうにしていきたい。これがひとつ、レモングラスが一つのきっかけになってほしいというふうに思っております。というのも、レモングラスは例えばハウスでつくった場合に、入っただけでもこうむせ返るようなレモングラスの香りがするわけですね。東京から来た人は、それにもう卒倒するわけですね。あるいはそこを一部刈って持って帰るであるとか、あるいはそれを加工品も一緒にするということになれば、確かに今レモングラスの白い花はまだ日本ではなかなか咲く状況にありませんけれども、例えばスイートピーとレモングラスの葉っぱをセットにして、例えば売るとか、プレゼントをしようと、そういう展開ができないか。

だから、ちょっと話は戻りますけれども、ぜひ今度イチゴの観光農園化を目指して、一部、全部とは言いませんけれども、先ほど申したとおり、一経営者で3割でも4割でもそこに充てていただいてイチゴジャムの販売をしようと、そういうふうな展開ができて、それは我々

としては広報ができます。いろんな意味でホームページであったりとか、旅行雑誌であるというのはいもうトップセールスで書いてくれということはできますので、ただ、そのイチゴを買ってとかそうじゃなくて、観光農園に来てほしいということで付加価値をつけた上での展開を考えてほしいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

千曲の観光農園のほうにまで行ったわけですけど、ぜひ観光農園で今市内には、東川登のブドウ農家さんがやられているものがあると聞くわけです。ぜひ今後、イチゴとかレモンガラスとかいろいろな形での取り組みというものがもういいんじゃないかなということ、なかなか農家との話し合いの中で検討できる余地もあるんじゃないかと思っております。

私が市民農園にこだわったのは、結局農地を一部貸すということは、農地を持たない人に今度は貸すということでその問題が引っかかるんじゃないかなと思うわけです。その問題をどうかまいとこ条例か何かでカバーできれば、三瀬あたりに民宿をやっている人が民宿の前の畑にいろんな野菜をつくらせてそれをとったり、食わせたりしているわけです。今現在、道の駅あたりで、山内あたり一生懸命やっておられるし、また北方とか武雄の物産展にもいろんな形で農産物の搬入がされているわけです。これを今のところそこに持ち込むだけですけど、それをよそからの人につくらせるというふうな形ばどうにかこうつくれば、同じキュウリでも、自分がつくった曲がりのキュウリでもうまかと思うかもわからんしというような、そういうふうな流れの中で、農業というものを理解する道をつくられないかなというのが私の希望ですので、その点も踏まえてよろしくお願ひしたいと思います。

次に、農地に対する希望ということで、今東川登や朝日のまちづくりの手でコスモスがその時期になればいっぱい咲くわけです。そして、その後には菜の花とか、いろいろな形の花のあるまちづくりというものが考えられております。また、武内や若木、山内町に行きますと、彼岸花のきれいな時期にはすばらしいものが見られるわけです。

このように美しい花園というものを今からさるく、歩いて回りたい、見て回りたいの中では大事な資産になるんじゃないかと思うわけですけど、そのような形で、よそに行けばヒマワリやらコスモスが田んぼに植えられている光景を見るわけですけど、このような形でコスモス、ヒマワリを水田にまいて花畑にしようと思った場合、農業政策の中で農地に花ば栽培しようと思ったら、どんな取り組み方法があるのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

農地に花等を植える話でございますけれども、これについては地元で、地域で話し合いを

してもらいまして、農家の同意ができればできるということを考えています。特に転作としてのそういう花等の作付でございますが、これについては国からの支援の金額等もございまして、そこでそこら辺を見て、どっちにしても地元での協議によってそういう取り組みをやらせてもらえたらと考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今検討されております協働まちづくり交付金や農地・水・環境保全対策事業などの資金を利用することによって集落、今部長が言われた形の中で、地域の合意が大前提ですけど、そんな中で、今言いましたような道の駅等の環境とかいろんなところにそういうふうな花園でもつくったら、観光の町、そしてまた、滞在してもらいたい町、農村を大事にしている武雄だなというものが理解されるような政策が検討されていくことを期待したいと思います。

そのような中で、ぜひウオーキングのまち武雄というものがPRできればいいんじゃないかと思っています。この前ありましたけど、JR九州と手を組んだウオーキング等もあるわけです。そんな中でも、またちょっと武雄市としてもシャービーばすれば、まちきっと楽しいコースができて、ああ武雄に行きたいなというふうな観光資源になるんじゃないかなということを期待したいわけですけど、その点いかがなものでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

ことしの秋はびっくりしたですね。JR九州さんが旗を振ってもらって、いろんな方々が県外、あるいは九州の外からお見えになって、武雄の中を歩いていただいているといったことに関して非常に感謝をしております。それと、先ほどさるくという話がありましたけれども、例えば、これは若者プロジェクトの三樹まいるの皆さんたちが一生懸命やっておられると。だんだんそれが形づけられてきたかなというふうに思っております。

その上で大事なものは、やっぱり物語です。三樹まいるは、なぜあだけの人が県外から来るかといったときに、やっぱり樹齢3,000年の大楠を3つ回ると、見方によっては2つですけど、回るという物語。それとなぜ何の変哲もない淀姫神社にあれだけの人が来るかといったら、それは「佐賀のがばいばあちゃん」のメインロケ地になったからだというその物語。それで、やはりその物語をもう一回再発見して、発掘をして、そこにストーリーとしてちゃんと入れ込むという作業が必要ではないかというふうに思っております。

あわせて先ほど話がありましたように、花のまちにするというのは大賛成です。例えば足利市、あそこは何県だったか忘れちゃったけれども、足利市がそれを栃木県。栃木県足利市の例えば商店街であったりとか、ちょっと離れたところは一生懸命やられておられます。

そういったことを参考にして、例えばこの東川登町はコスモスという町のつくりになっておりますし、例えば西川登だったらヒマワリとか、そういうふうな町に応じて、何ていうんですかね、花を決めたりとか、この街道は一年じゅう大体花があるであるとか、そういう景観とセットにしてその花を植え込むとか、そういうことが必要ではないかというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういうふうな形でできることを希望します。今言われましたように、市内には先ほど言いましたような、長崎街道、九州自然遊歩道、若者プロジェクトの三樹物語、そしてもっとロマンがあるのは六角川の、くねくね回っている川を上流から下流へ、下流から上流へと歩くような散歩道、ここに農村の麦の時期、田植えの時期、稲穂の時期、青田の時期といろんな季節というもの、農村の風景が見られる遊歩道コースができるんじゃないかなと思っていますので、今後、それらも含めてぜひ検討されて、ウォーキングのまち武雄、滞在したくなるまち武雄の建設というものにぜひ私たちも一丸となって頑張りたいと思います。

次に、子供たちの安全対策についてお尋ねします。

教育長は、子供の遊びについてどんな考えをお持ちでしょうか。特に屋外での遊びについてお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

思い出しますと、私どもは季節に合った遊びをしながら成長してきたというふうに思います。また、そこには必ず友達がいたりしたわけでありまして同時に社会性も身につけてきたというふうに思います。知と体のバランスのとれた成長のためには遊びは欠かせないものだというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私は夏の高校総体での活躍、また甲子園での佐賀北高の優勝、また近くでは県内中学駅伝での山内中学校の優勝、またそんなに優秀な成績でなくても子供たちの各種スポーツ大会での頑張りというものは、見ている者にでもわくわくして楽しいものです。そんな体力、集中力も、勇気も生まれながらの天性よりも努力のたまものだと思っています。

その点、こういうふうなスポーツをたしなむ子供たちの育成についてどのように教育長は考えておられるかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

すばらしい成果を上げた彼らの体力とか集中力、それを支えた努力、非常に私たちに勇気を与えてもらいました。いろんな面からそのすばらしさが多面的にとらえられて、私たちの生き方に影響を与えてくれたわけですがけれども、共通しておりますのは、やはり目標を持ってひたすらに努力する姿、これはだれにとっても共通して大きな感銘となって精神的な支えとなってくれる、そういう努力の大切さというのを感じたというところでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私はスポーツの原点は、走ったり、飛びついたり、登ったり、跳んだりと一つ間違えればけがをすることの背中合わせの中から鍛えられていくんじゃないかと思うわけです。そんなとき、今の世の中、私は気になることがあります。それはいろんな遊具が危ないからとか、日本のどこかでけがをしたから撤去せると、何でもかんでも撤去せるといふふうになっているのが気がかりです。昔、私たちは西部劇で馬にまたがり格好よく手放しで乗っているカウボーイの姿を見て、次の日はブランコや滑り台ではちょっと手放しをして格好よく見せようとしたものです。そうするとそのうちに1人ぐらいは落っこちて、けがをした子もいました。そんなときは親から怒られるのを……。そこら辺困りまして、そこら辺からフツなどをつんできて、つばでぱっぱとこうして、その傷口に押しやつけて、そのうちに泣きやむのを待って遊んだ記憶があります。そんな中で、その親も「今からブランコや滑り台に乗ったらいかん」とかいうことを言わずに、「まちきっと上手に乗らんばいかんたい」というぐらいの言葉で済んだわけです。その点今の世の中、先ほど言いましたように、けがをしたり、何かしたら撤去せる、片づけるということがあるわけです。今の指導ではこのようにけががあった場合、その施設のあり方をどういうふうにご指導されているかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

お答えします。

今年度、これまでにしましてはブランコとか滑り台等でのけがは報告されていないわけですが、遊び方によっては危険になる場合も当然あるわけでございます。生活科という学習が入ったわけですが、まさにその遊び方の学習からやるわけございまして、公園に出たり、出向いたりしてやるわけです。それぞれ危険性があると思われる遊具等については、直接担任が教えたりするという場合もございまして、実際の場所に連れていって、遊び方の指導

をするというようなこともやっております。危険な遊び方等が見られた場合は、当然全校的にも指導しているという状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

当たり前でございますが、けがをしないように注意して、ぜひそういうふうな施設等を利用して、元気な子供たちが育つことを祈るわけです。

今、朝日小学校ではグラウンドの建設が始まり、朝日町民は感謝でいっぱい喜んでおります。その中で、このグラウンドに対してどんな遊具が、施設がどこから持ってこられて設置されるのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

新しい朝日小学校のグラウンドに設置する遊具につきましては、学校のほうでこういうふうなという要望もございまして、それからまた、今現在のグラウンドに設置されている遊具の取り扱いもありますので、今後、学校のほうとどういうものをどういう場所にと具体的な協議を行って決めていきたいというふうに考えております。方針といたしましては、平成20年度の、新年度の予算でそういったものを計上していきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

新しい遊具というものができると思います。その中で、この前地元で説明会があったわけですが、今までの遊具は利用されないんですかというふうな意見が出たわけですが、そんな中で、今あるのは持っていけるのは持っていけるけど、腐食などで危険なものも多いので、その点、持っていくこともできないのもあるよというふうなことが話されたわけですが、その点、こういうふうなグラウンド等、小学校、中学校、いろんな施設があるわけですが、遊具などの安全管理や点検というものはどのように行われているのでしょうか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

お答えします。

学校におきましては、関係法令等規定もございまして、県の体育保健課が指導もされるとい

うところもでございます。毎月1回は学校施設設備の異常の有無について点検をしております。最低1回ということでございます。

教育委員会としまして、9月も実は全校調査をしたわけでありますが、この遊具の点検については学校に依頼しておりますし、撤去すべき遊具などの調査もしているところでございます。必要に応じては、実際に学校に出向いて対応をしているところでございます。また、学校訪問というのも年間に1回ずつやるわけですが、その際も担当指導主事がすべての遊具等をチェックするというをやっております。学校においては、危険と判断した遊具は使用禁止にしたり、危険部分を保護したりして使用できれば使用するという形をとっております。

それで先ほども言いましたけれども、学校によりましては、子供たち向けの遊具の使い方とか、後片づけとか、指導をする手だてを工夫してやっているという状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ちょっと確認しますけど、今毎月1回の点検ということですかね。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

各学校毎月1回は安全点検、その遊具だけの安全じゃなくて校舎等の施設等の安全点検も実施しております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

その場合は、学校の先生たちが行われるということですかね。プロの何かマニュアルに沿ってやられるのか、どういうふうな方法でやられているかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

遊具施設等含めまして危険性がないか等の、あるいは破損とかないかほとんどの学校で各担当職員が自分の持ち場を点検しているというふうに思います。特に、腐食など素人ではわかりにくい場合もありますので、これは教育委員会のほうへの連絡もありますし、連携して調査をしたりするという事になっております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ安全のためマニュアルに沿って点検して、なるべく遊具等はいろんなところから撤去せずにそれを利用して遊ぶことにより、元気でたくましい子供が育つことを希望します。

次に、食育についてのお尋ねです。

私は以前、朝日の第2保育所の生活発表会に出席しました。その中で、感動した発表があったわけです。それは子供たちが、私たちから見ればどこが農園かなというふうな小さい場所だったと思いますけど、その中でナスやピーマン、インゲン、オクラ、ミニトマト、キュウリ等を栽培して、それを毎日、朝、子供たちが来て収穫させるというふうなことをして、いつ、どれが、どれぐらいちぎったということを年長さんの子供たちに管理をさせたということがあったわけです。そしてそれが発表されました。ミニトマトは真夏になったら毎日どんどんなって、数は忘れましたが、100個、200個、それ以上に1,000個近いような数を収穫したよということがあったり、ナスビは小さかったけど、ぼちぼち1週間に何個ずつなったよとか、オクラになれば、最初は物にならんですけど、後でなったよというふうなきめ細かに収穫の観察をしたものが発表されたわけです。そしてその後、その子供たちに好きな野菜は何ですかというふうなことをその担当の先生が質問されたら、ピーマンやらナスビやらカボチャやらタマネギと、今私たちが聞けば、ピーマンが好きな子のおったとやるかにやて思うたわけですけど、自分たちがつくった野菜を給食のおばさんが肉詰めしてくれたよとか、それを家で話したら、お母さんがいろんな形でピーマン料理をつくってくれたからピーマンが好きになったというようなことが、タマネギとか、いろんな形で発表されたわけです。これこそ食育だなと思ったわけです。

こんな形で食物の大事さというものを理解する、教育するのが食育だと感じたわけですけど。それで所長さんに聞いたら、今、市の食育課があるからその中からの指導もあったし、これは子供たちに受けるから継続して続けたいですねという話があったわけですけど、その点、今武雄市では食育はどういうふうになされているのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

子供たちの野菜づくり体験というのは、現在学校とか保育所で取り組まれておりますけれども、今後もその取り組みを広げていくために情報提供などをして支援をしたいというふうな考えております。それから、現在食育課のほうでは、市報とかホームページ、ケーブルテレビなどを通じまして食育の情報発信をして、食育事業としては食育講演会、出前講座、子供や保護者を対象とした料理教室を開催いたしております。特に、子供と保護者を対象としましたキッズキッチン、子育て応援クッキング教室など、小学生や保護者向けについての食

育の事業を重点的に取り組んでいるというところでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういうふうな料理を自分たちでつくって、自分たちで食べるというふうなことが大事かと思っておりますので、その点、ぜひ栽培する農育まで含めた形で、今地域の水田で稲をつくったり、芋をつくったりと色々な形で栽培されていますけど、ぜひこの第2保育所のような形が、ほかのところもあると思っておりますけど、ぜひいろんな野菜というものにチャレンジしてその特性というものを見るのもおもしろいと思っておりますので、今後、その点も含めて食育を大事にしてもらいたいと思っております。

次に、若者の定住促進対策ということでお尋ねしたいと思います。

若者の定住対策ということは、地方行政では大事な政策と思うわけです。そんな中で、武雄市では市長を中心に大規模な工業団地候補地の設定に努力されているし、それが先には企業誘致とつながると思っております。ぜひ企業誘致につながるようなことをやってもらい、ぜひ大規模なものを、大規模でも何でもいいですので、雇用の場につながるようにしてもらいたいと思っております。

私はこの中で、武雄東部地区、北方町を含めて、このバイパス通りの開発というものをしたらもっと雇用の場の確保につながるんじゃないかなということを思ったわけです。その点、今この地域のところはどういうふうにご検討されているのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えをしていきたいと思っております。

定住促進につきましては、定住促進のための雇用の場の創出ということは重要不可欠だというふうに思っております。総合計画におきましても、定住化、産業振興を図るために、新たな住宅地や工業団地の土地利用を推進することというふうにしております。東部地区につきましては、第1次開発で5.6ヘクタールを民間で開発が済んでいるところがございます。今後、新たな市街地の広がりも必要ということもございますけれども、東部地区につきましては学校、公共施設等での整備を考えていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ今農村も含めいろんなところが、なるべく子供たちが定住するような、仕事場がないというものが一番の切実な問題です。その点、鳥栖あたりでは物流センターあたりがどんど

ん開発され、誘致につながっているというものを聞くわけです。その点もありますので、ぜひ手を挙げられて積極的に推進というものをできるだけお願いしたいと思います。

それに関連しますけど、今公共下水道事業ということで、この前通水ですかね、通水ですね。通水の試験も行われて公共下水道が進んだというふうなことを聞いておるわけですけど、それで東部開発が進んだ場合に、その点への導入というものはできるかどうかということをお尋ねしたいわけですけど。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

公共下水道が12月1日に供用開始したわけでございます。この地区は、今現在では計画区域に入っておりません。というのは公共下水道が始まったときにその地区が開発されるという計画がなかったわけですね。その後、計画が入って今の5.6ヘクタールが開発されると。そして今後の東部地区開発の計画がありますけど、まだはっきりとした計画じゃないものですから、はっきりとした計画ができ次第その部分を計画区域に入れて、今の処理場、供用開始しておりますので、その処理場に流せるといふふうにしたいということです。

議長（杉原豊喜君）

9番山口広良議員

9番（山口広良君）〔登壇〕

そしたら、計画が進んだらその都度、またそれも計画変更も可能だということでも理解していいわけですね。そしたら、その延長線として下水道未整備地区はどうなるかということが今懸念されるわけですけど、そのときに朝日町の高橋地区とか、甘久、中野地区と川良地区と、今の計画とは別の地域が隣接しているような形で集落が形成されるわけですけど、その点への延長というものは考えられないのでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

下水道の今の計画区域、これは183ヘクタールで計画決定しております。これは今、今年度マップの見直しというのをやっているわけですが、現在のマップでは旧武雄市の分で750ヘクタールという計画区域がございます。今それを見直しているわけですが、この朝日町、あるいは武雄東部、ここら辺につきましてもそのマップの見直しの中でどうするかというのを今検討しているということです。ですから、今年度中にはマップができますので、それを受けてその後、集合処理でいくのか、個別処理でいくのかというのを発表したいと思います。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

そしたら、今くしくも朝日のことを言ったわけですけど、ほかの地域でも市内では農業集落排水等ができていない地域がたくさんあるわけです。そんな中で、未整備地区というものもありますので、その点も含めてマップの見直しが全体的にやられるというふうに理解していいわけですかね。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

マップの見直しは武雄市全体をやるということです。ですから、旧武雄市以外も北方町の分もあわせてマップの見直しをやるということです。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひこの公共下水道事業も含めて生活排水処理事業というのは、大事なライフラインだと思いますので、定住して、最初から言いますように、子供たちが田舎のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に生活して楽しい団らんを願うわけです。そうすることによって、農村社会の元気も取り戻すと思いますので、そういうふうな形になることを期待して私の一般質問を終わりたいと思います。

以上です。